

古地図から見える、結城の歴史

古地図や古文書などを頼りに散策するまち歩きが、テレビなどで人気を集めています。北部市街地にも残る「城下町のまち割り」は、安土・桃山時代の慶長3（1598）年ごろに結城氏18代・秀康によって作られました。400年以上前に作られたまち割りが現存するのは全国的にも珍しく、今でも古地図だけを片手にまちの散策ができるほど。

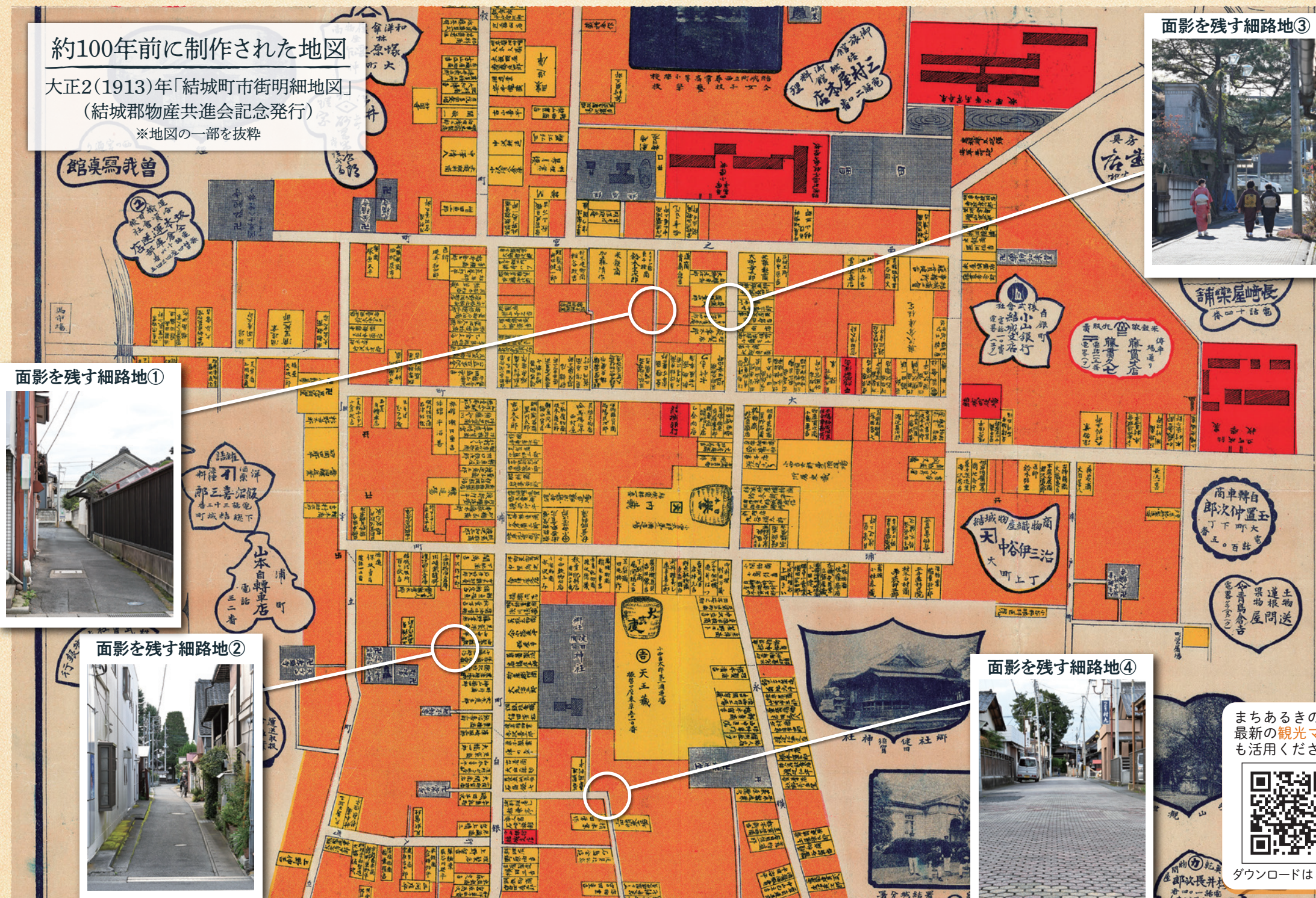
まち歩きに最適な11月。あなたも、古地図から見える結城の歴史に思いを馳せながら、北部市街地を散策してみませんか。

約100年前に制作された地図

大正2(1913)年「結城町市街明細地図」

(結城郡物産共進会記念発行)

※地図の一部を抜粋



面影を残す細路地①



面影を残す細路地②



店や職人の住む場所から「町名」が生まれた

北部市街地にも残る「町名」は、当時その地区に多くあった店や居住する職人などが由来になっています。

木 町:材木商 紺屋町:染物屋
鍛冶町:鍛冶屋 穀 町:穀類問屋
番匠町・大切町:大工、木挽 など

【出典:結城市観光案内ホームページ】

面影を残す細路地③



面影を残す細路地④



まちあるきの際は最新の観光マップも活用ください



ダウンロードはこちら

「市民は結城の“魅力発信者”」 市観光ボランティアガイド協会にインタビュー



寺戸会長

当協会は、平成10（1998）年に設立しました。現在12人の会員のもと、まち歩きによる観光案内や、市民情報センターにある観光案内所の運営、「ゆき七福めぐり」等の自主イベントなどを行っています。

結城に来るお客様は、歴史や結城紬などを目的に、埼玉や東京、

神奈川などからいらっしゃる方が多いです。結城の知識が豊富なりピーターも沢山いて、私たちも勉強の日々ですが、案内の最後に「良かった、楽しかった」と声をかけていただいた時は、ガイド冥利に尽きますね。

ただ、私たちは各分野の「専門家集団」ではなく、いうなれば「ふる里結城を愛し、結城を訪ねてくるお客様を愛する」者の集まりです。観光客とのふれあいや対話を楽しめる方ならだれでも歓迎ですし、最近は「結城を盛り上げたい」との思いで30代の女性が入会しました。結城の観光やまちづくりなどに興味のある方は、気軽に参加していただきたいです。

今年は初めて、市民向けの「観光講習会」を開催しましたが、結城の観光や歴史に対する“市民の理解”はまだまだ低いと感じています。歴史あるまち割りや細路地、見世蔵や寺社など、北部市街地は「まち全体がテーマパーク」だといえます。昔から結城に住む方も、新たに転入した方も、これを機に地元の歴史や観光資源を再認識し、皆さんが「結城の魅力発信者」になっていただければありがたいです。



吉田ガイド

市観光ボランティアガイド協会では
会員を随時募集しています
図 市商工観光課 観光係 TEL 34-0421

茨城デスティネーションキャンペーン 【令和5年10月～12月】

JRグループと地域が一体となって行う、国内最大規模の観光キャンペーン。期間中は多くの観光来訪が見込まれます。今秋（10～12月）には、プレキャンペーンを開催します。



ホームページ